

平成28年度日本臨床漢方医学会
内科医からみた皮膚疾患の漢方治療

大分市 織部内科クリニック
織部 和宏



鼎談

皮膚科領域で漢方薬を活用するために

——『皮膚科漢方10 処方』の発刊にあたって——

これまでに報告されたエビデンスを中心にすえた小冊子『皮膚科漢方 10 処方』が今般発刊された。これを執筆された先生方3人にお集まりいただき、冊子に掲載しきれなかった漢方的な考え方や、発展的な使い方、先生方のご経験などについてお話し合いいただいた。先生方のお話からは、皮膚科領域での漢方治療の必要性が明らかになり、漢方的な証を難しく考えずに使える漢方薬も多いことが示された。冊子の監修をされた古江増隆先生（九州大学教授）にも別途インタビューをさせていただいたので、その記事もあわせて掲載する。

〈司会〉

石井 正光 先生（大阪市立大学大学院医学研究科
皮膚病態学教授）

山田 秀和 先生（近畿大学医学部奈良病院
皮膚科学教授）

夏秋 優 先生（兵庫医科大学皮膚科学准教授）

「皮膚の症状イコール証」ととらえて治療

皮膚科医は病理組織像が頭に入っていて皮膚に現れている症状から病理学的にわかる。

- A 表皮に水疱形成やバルーニングがあったり真皮の上層に水が溜まっている ⇒ 水滞
- B 血管拡張 = 炎症 ⇒ 熱
- C 老廃物が溜まっている治療 ⇒ 瘀血
- D 乾燥 ⇒ ストレスがかかるとドライスキンになるのは動物実験でも明らか
- E 食養生が大事 ⇒ 「小皮膚科学」(北村包彦、川村太郎 著)
尋常性乾癬では脂肪が 3 g / 日以下

十味敗毒湯

夏秋氏：皮膚の炎症が比較的浅い。程度のひどくないものの適応。尋常性乾癬に良い。

— 毛包を中心とした炎症。ただし慢性化して深くなったものには荊芥連翹湯が良い。

山田氏：東洋の抗生物質

— 細菌感染を伴う疾患に使われた。

夏秋氏：散発性の丘疹や膿疱のある軽症タイプが適応

アトピー性皮膚炎はステロイド外用していると

黄色ブ菌性や真菌性の毛包を併発した例に良い。

夏場に多いマラセチア毛包炎はファーストチョイス

十味敗毒湯 著者コメント

- ・ 加連翹として大塚先生、山田光胤先生は使用。浅田家。
- ・ 浅田宗伯 「勿誤藥室」「方函」「口訣」に
 癰疽及び諸瘡腫、初起増寒、壯熱疼痛を治す
 今、樸椒を以って桜皮に代う。
- ・ 癰疽に限らず一切の腫物、初め熱ある時は十味敗毒湯を用い
 潰ゆるや否や分明ならざる時は托裏消毒飲を用い
 口潰ゆることを見定め其の虚実に従い千金内托散を使用
- ・ 矢数道明
 目標：小柴胡湯の適応する体質傾向を有し神経質で、
 胸脇苦満があり化膿症をくり返すフルンケローグス。
 アレルギー性の湿疹、じんま疹などをおこしやすい
 体質者

荊芥連翹湯

十味敗毒湯との使い分け

夏秋氏：どちらも毛包を中心とした炎症反応によいが、
「しこり」を触れるような慢性化したタイプ、
あるいは、より深い所に炎症反応を起こしている
ものに良い。

- 又炎症が慢性化して異物が溜まってきたところにマクロファージが集まってきて処理しているような肉芽腫性反応の病態にも良い。

例) サルコイドーシス 粉瘤破裂例

- 化膿しやすく慢性的に炎症反応を起こしやすい人の体質改善

荊芥連翹湯 著者コメント

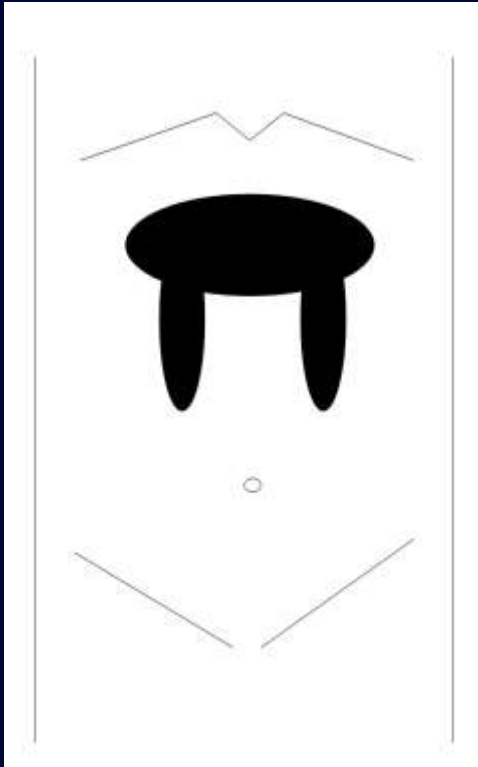
- 一貫堂 森道伯の経験方 解毒症体質又は腺病性体質を改善。万病回春の耳病門、鼻病門の荊芥連翹湯の加減方である。

（加黄連、黄伯）（加薄荷、地黄）

鼻病門

- 幼年期の柴胡清肝散症が青年期に達すると荊芥連翹湯症となる。
- 皮膚の色は概してドス黒く暗褐色を呈することが多い。手足の裏の油汗多し。
脈は緊、腹は腹直筋が全体に緊張、肝経、胃経（⇔白芷、枳殻）に相当して腹筋の拘れんを認める。

長尾折三氏「神経衰弱の者は皆腹直筋緊張を認める」と発表



これは荊芥連翹湯の腹証であってこのタイプの神経衰弱はこれで治ると矢数格氏（漢方一貫堂医学より）

- 一般的には上焦に発した鼻炎、扁桃炎、中耳炎、副鼻腔炎等に用いられる
- 青年時代に憂うつな印象を与える者は解毒症体質
一般に長身で筋肉質、やせ型で骨っぽい体格
- 禿髪症によく効く

黄連解毒湯

山田氏：赤味の強い炎症性の皮膚疾患にはファーストチョイス。

「漢方のステロイド」

アトピー性皮膚炎の痒みがイライラ感もよい

夏秋氏：皮膚の炎症、赤みは明らかに熱と考えられるが皮膚に赤みがなくても中枢神経系の過興奮も熱の概念に入れて良い。

腎不全を伴う皮膚掻痒症によく効く

石井氏：「痒み、紅班、イライラ」「皮膚を乾燥させやすいので加四物湯として用いる」

白虎加人参湯

山田氏：・アトピー性皮膚炎の顔面の紅斑が強い場合に良い。
速い人で40分位で引いてくる。

- ・顔面の紅斑で鼻のところだけは赤くないものによく効く。
- ・ヘッドライトサインと言って鼻の先が真っ赤→ステロイド酒さ鼻で効かない。

著者コメント：辛夷清肺湯合黄連解毒湯、治酒さ鼻一方、葛根紅花湯等が効く。

夏秋氏：顔面の赤味

乾燥傾向→白虎加人参湯

湿潤傾向→黄連解毒湯

著者コメント

いずれも実証タイプである。虚証には苓桂味甘湯、桂枝加黄耆湯をベースに少量の黄連解毒湯を合方して使用すると良い。

越婢加朮湯

夏秋氏：体内の局所に水が多く停滞している水滯を取り除くときに使われる方剤。皮膚科領域では水疱を形成する疾患があり、「炎症性の浮腫」「湿潤傾向がある皮膚病変に」良い。「手足の汗疱状湿疹（異汗性湿疹）」

著者コメント

- ・ 虚証者には防已黄耆湯をベースに考える。
- ・ 消風散を合方するとより効果的である。

温清飲

石井氏：「特発性色素性紫斑に特異的に効果がある。」

「皮膚の栄養をめぐらしてしっとりさせ色をきれいにして生き生きとさせる働きー（四物湯の効果）と血管も強くなり出血が止まって治っていくー（黄連解毒湯の効果）

著者コメント

（加黄耆、甘草だと効果がパワーアップし又飲みやすくなる。）

「尋常性乾癬に駆瘀血剤と併用して非常に良い結果が出ている」

即ち

「乾癬は病理組織学的には血管が細く伸びた状態の瘀血と考えられ、駆瘀血剤を中心にして温清飲のような熱を取りながら肌を潤す方剤を入れるとうまく治療出来る。」

その他

石井氏：「五苓散は水を抜きたい時に使用」

「病態によっては駆瘀血剤の通導散と併用すると良い」

「寒冷蕁麻疹に麻黄附子細辛湯」

著者コメント

「消風散」について 「外科正宗」

A矢数道明氏 漢方処方解説より

「内熱があって分泌物が強く癢痒の甚だしい皮膚病」

「頑固な湿疹で分泌物が多く痂皮を形成し、地肌が赤味を帯び痒みが強く口渴を訴えるのを目標とする」

原典は外科正宗であるが・・・疥瘡門に

「風湿、血脈に浸淫し、瘡疥を生じ癢痒絶えざるを治す」

具体的には白屑風（しらくも？） 瘡癬瘡（ざふつそう、あせも？）、鈕叩風（ちゅうだふう、皮膚癢痒症？）に使うとある。

「消風散」

B「中医処方解説」神戸中医学研究会

①風湿熱の皮疹・・・痒みが強い 夜間に憎悪
局所の発赤、熱感、滲出液が多いあるいは水疱形成
体の木テリ、熱感、口渇、舌質 紅、舌苔 微黄
祛風の防風、荊芥、蝉退、牛蒡子
清熱の石膏、知母、苦参、生地黄
利湿の蒼朮、木通
養血潤燥の当歸、胡麻仁
清熱解毒 生甘草

B② 湿疹群 じん麻疹群 痒疹群の代表処方

加味のポイント

i 炎症が強く局所の発熱熱感が強い 石膏を増量する。
効果不十分 黄連解毒湯合方

ii 化膿性炎症 連翹 金銀花 魚腥草加味

iii 湿潤が強い時 苓苡仁 羌活 白芷 車前子 防已
茯苓 茵[♂]蒿 沢しゃなど利湿剤、越婢加朮湯

iv 乾燥傾向 温清飲合方

v 貨へい状湿疹、自家感作性皮膚炎には消風散合越婢加朮湯

皮膚疾患と漢方

大分市 織部内科クリニック
織部 和宏

緒 言

漢方を専門にしているとアトピー性皮膚炎を初め色々な皮膚疾患の方が来られる。

大別すると

A 近所に住んでいて皮膚科に行くのが面倒くさい。

B 皮膚科に通院していたがすぐステロイドを経口や塗布剤で出されるのが嫌だ。

抗アレルギー剤を服用すると眠気と口乾で続けられない。

C 皮膚科の治療では仲々治らない。

と言った理由が多い。

緒言

著者の経験ではBの人は性格的に猜疑心が強かったり、マスコミの影響をまともに信じ込みやすいタイプの人が多い。

そのくせセツカチでじっくり治療を受けていれば完治すると説得しても、ステロイドを悪魔の薬の如く思い込んでいてなかなか聞く耳を持ってくれない方が多い。

Cの人は漢方でも当然難治性であるが色々工夫して少しでも良い方向を目指して頑張るしかない。

緒 言

A, B, C例を含めてと言うかゴツチャにして今回は症例を中心に報告する。

ただし、診断名について著者は内科医なので皮膚科的には正しいかどうかの自信はないので、その点は専門の先生に御教授いただきたい。

漢方治療の原則

漢方治療の原則として
一般的に皮疹の性状に基づき

浸潤性 22消風散 乾燥性 71四物湯+阿膠

炎症が強い時 黄連解毒湯(特に黄連) 浮腫 茵陳五苓散
(赤み) 石膏(裏熱)

漢方治療の原則

皮疹の出る部位によって

頭～顔～頸 桂枝加黄耆湯+ 手掌、足蹠	眼瞼周囲、口囲 痂皮を伴う湿疹等 アクネ	梔子柏皮湯(山梔子、黄柏) 59治頭瘡一方 清上防風湯、6十味敗毒湯
---------------------------	----------------------------	--

膿疱症 一般的 121三物黄芩湯 + 6十味敗毒湯
病巣感染 荊芥連翹湯

末端乾燥性(きれつ、ヒビ割れ) 温経湯

凍瘡性 当帰四逆加呉茱萸生姜湯 + 桂枝茯苓丸加薏苡仁

下肢うっ滯性 桂枝茯苓丸加薏苡仁 + 防已黄耆湯

漢方治療の原則

全身性

上半身

虚

桂枝加黄耆湯

実

桂枝二越婢一湯、葛根湯

下半身

虚

防已黄耆湯

実

越婢加朮湯

病位、病期

陽病

太陽病 虚 桂枝加黄耆湯

実 桂枝加黄耆湯合越婢加朮湯

加荊芥、連翹、樸楸、黄連、山梔子、黄柏

少陽病 荊芥連翹湯(小、中学生、柴胡清肝湯)

十味敗毒湯

陽明病 白虎加人參湯、黄連解毒湯、三黄瀉心湯

陰病

太陰病 十全大補湯、黄耆建中湯

少陰～厥陰病 茯苓四逆湯

加味方

炎症が強い時
痒み

化膿傾向

排膿目的

苔癬化、ニキビ
疣贅

肝斑

乾燥

荊芥、連翹、黄連、石膏

樸楸、蝉退、防風、羌活

荊芥、連翹、金銀花、桔梗

エキス 排膿散及湯 生薬 桔梗、枳実

薏苡仁 多めに使用

山梔子

エキス 四物湯 生薬 阿膠、麦門冬

病位、病期

太陽病 虚証 顔面湿疹

基本的に桂枝の入った方剤は顔面の軽いホテリ、即ち眼の周囲や頬がボーっと赤くなる等の特徴がある。

参考 吉益東洞 薬徴

「衝逆を主治する」＝上衝

症例①

桂枝湯例 E・M 35才 女性

普段は胃気虚に対して六君子湯を服用している。写真①の状態が、感冒罹患②



症例②

桂麻各半湯例 I・J 56才 男性
感冒で来院時、赤いカゼ、青いカゼ（麻黄附子細辛湯）③



症例③

苓桂味甘湯例 K・M 26才

顔面の紅斑が主訴④、その面 翕然として酔状の如きより、
苓桂味甘湯を服用させた。⑤



まとめ

顔面の各部位の湿疹は桂枝湯をベースにした桂枝加黄耆湯が基本方剤となる。実証には桂枝加黄耆湯合越婢加朮湯、黄耆は東洞の薬徴「肌表の水を主治」

中薬学 ①補気昇陽 ②固表止汗 ③托瘡生肌

(気血不足による瘡瘍内陷, 膿成不潰, 潰後膿出清稀, 久不收口)

④利水消腫

顔面湿疹

部位別の加味方

眼瞼や口の周囲の炎症

加山梔子、黄柏

頬の赤みの強い皮疹

黄連（大黄）、黄連解毒湯

化膿傾向

桔梗、・苡仁、金銀花、枳実

炎症が強い場合

荊芥、連翹

痒み

樸楸、蝉退、防風、羌活

著者の感想

女性に多く、化粧品がらみ、最近ピーリング等でおこる人が多いようである。

便秘の有無のチェックが大事である。

症例④

T・K 61才 女性

平成20年6月20日 急に顔面～前額に浮腫と紅色の皮疹が出た。皮膚科でアレロック、ラミアン処方、塗布剤もらったが改善なく9月8日当院受診。

脈やや浮、血圧120/80

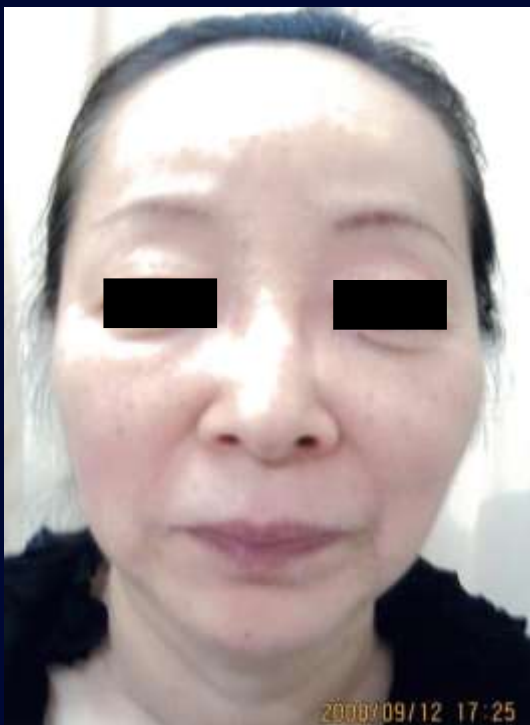
(写真①)



経過 化粧品を禁じ、桂枝加黄耆湯合梔子柏皮湯を6.0g分
3/日で投与した。

一週後に浮腫、紅色、皮疹ほぼ軽快した。写真②

三ヵ月後、全治とみなし廃薬。写真③



コメント 化粧品による接触性皮膚炎だったと思われる。

症例⑤

D・M 34才 女性

二年前よりアフター性口内炎が再発し陰部潰瘍が出来、
近医で不全型ベーチェットと言われ治療するも軽快せず。
二ヶ月前より眼瞼周囲が赤くなり痒いと言って、
平成19年5月20日来院した。

脈 70/分 やや浮弱、血圧 110/74



経過 逆流性食道炎もあるというので安中散合桂枝加黄耆湯とした。二週後軽快。その後桂枝加黄耆湯合梔子柏皮湯に変方した。又口内炎には甘草末を外用させた。漸次、軽快した。写真⑥
一年後には特に皮疹なくなっている。写真⑦



症例⑥

F・H 52才 女性

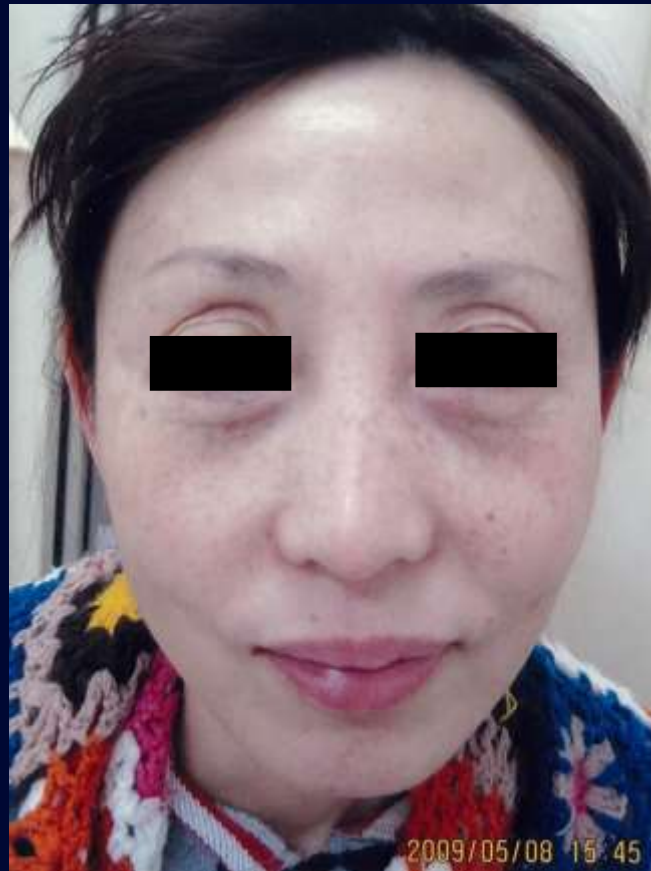
50才をすぎ顔は褐色斑が増え、きたなくなっただので美白クリームを顔中に塗った所、顔が真赤になり熱くてヒリヒリすると言って来院した。写真⑦
傍に陪席していた女性の研修医がピーリングによる接触性皮膚炎で用法用量を守らなかった為と教えてくれた。

「ところでピーリングって何？」



症例⑥

経過 桂枝加黄耆湯＋黄連解毒湯を投与した。一週後に来院して三日目に治ったと言う。最近は、こんな感じである。



症例⑦

M・M 40才 女性

20才頃より生理前になると皮疹が出る。2-3年前から生理後も治らなくなった。皮膚科の抗生剤は効かない、逆に痒くなると言って来院した。項～背中も赤くなり痒い。

体格、栄養状態 良好。脈 沈弦、血圧118/78

腹診 腹力中等度で右に胸脇苦満、下腹に瘀血と思われる圧痛あり。



経過 腹診を参考にして十味敗毒湯合桂枝茯苓丸加・苡仁
（ヨクイニンはAcne様皮疹によく効く）とした。
二週後に完治したが（写真⑫）生理との兼ね合いもあり継
服させた。最近はすべて問題なし。



症例⑧

K・M 54才 女性

6年前より皮膚筋炎に罹患し、現在プレドニン20mg服用している。平成20年7月1日、当院へは目の奥と頭が痛む、腹痛、皮膚の疲労感、足の関節(膝、足首)が痛む、顔～手の甲の皮疹が治らないと言って来院。

やや肥満、脈 沈弦、血圧136/80

腹証は、腹力中等度で両側性の胸脇苦満、腹直筋攣急、下腹に瘀血と思われる圧痛を認めた。

ヘリオトロープ、ゴットロンサイン？



症例⑧

経過 「すべて漢方でよくしてくれた」と言われた。
腹診を参考にして四逆散合桂枝茯苓丸加・苡仁を処方した。
二週おきの来院毎にみるみる軽快した。
三ヵ月後の写真を示す。 半年後の顔写真



顔面湿疹の症例

○症例⑨ F・H 20歳

主訴 眼けん周囲皮膚炎

現病歴

幼児期よりアトピー性皮膚炎があった。

昨年12月、急に目の周りが発赤して痒くなった。

近所の皮膚科で半年間、セルテクト、アレグラを服用し、ステロイド軟膏塗布すると逆に悪化してきたので、H22年7月に当院を受診した

現症

望診で眼けん周囲の紅斑、写真
脈 沈細、血圧104/68 腹力やや弱 腹直筋わずかに拘攣



2010/07/14

○F・H 経過

桂枝加黄耆湯合黄連解毒湯を投与した。

1 週後は軽快傾向 写真



2週後 ほぼ発赤消失



4週後 一部の色素沈着を残すのみ



8週後 完治 (写真下) 廃薬とした。↓



↑ 初診時写真



症例⑩

I・M 0才～

生後四ヶ月目に両頬に皮疹を生じ耳介に及んだ。皮膚科を受診した所、いきなりキンダベート軟膏を出され、調べたらステロイドが入っていると分かり恐くなり、一ヵ月後に来院した。(平成19年6月18日)



経過：桂枝加黄耆湯2.0gを分3で服用するように指示した。
頬の皮疹はみるみる良くなったが、耳介下の湿疹がもひとつ治らないので、五ヵ月後に加治頭瘡一方とした所、一年後には完治した。



本日は「カゼ」で来ました。
平成21年5月25日



症例⑪

T・A 47才 男性

慢性C型肝炎で長年治療中の患者である。

今年（2009年）7月11日鼻尖が急に赤くなり、本日は右頬に広がったと言って来院した。7月13日

局所に熱感はあるが痛みはないと言う。

脈 沈弦 血圧104/70



症例⑪ 経過

一見 丹毒のように思われたが、発熱や圧痛は余りハッキリしない。

検査一式では白血球数4100、ASC0143 (<160)
CRP1.52 (<0.30) 単純ヘルペスCF32 (<4)
水帯ヘルペス 8 (<4) であった。

15黄連解毒湯7.5 g +6十味敗毒湯
サワシリン3T 3×～
4日分投与で完治した。
(写真は1週後)



全身性の皮膚疾患

A アトピー性皮膚炎

治療原則

病位、病期、虚実、皮疹の性状そして腹診によって
方剤を決定する。

即ち、裏（寒、熱）、瘀血、肝うつの有無について

症例⑫

S.M 22才 女性

幼年期よりアトピー性皮膚炎があり、食事療法してきた。

今年二月に入り、顔面が赤く腫れ皮疹が広がり眼も開けられなくなり平成21年2月25日、来院した。

体格栄養中等度、脈やや浮、血圧112/72



症例⑫

経過：太陽、中間と考え煎じ薬で桂枝加黄耆湯加荊芥、連翹、樸楸、山梔子、黄連、蝉退を投与した。

3月17日、一端悪化し膿も出、全く開眼不能となった。
加金銀花とした。3月28日余り改善せず。

そこで奥の手としてこの際、毒を発散させ脱皮させる意味で麻黄3.0g、石膏4.0gを追加した。

4月11日 第一回脱皮時。

4月25日 第二回脱皮後、眼が開いた。

5月9日 どんどん良くなってきた。

5月23日 ほぼ略治。

症例⑫

経過：太陽、中間と考え煎じ薬で桂枝加黄耆湯加荊芥、連翹、樸楸、山梔子、黄連、蝉退を投与した。

3月17日、一端悪化し膿も出、
全く開眼不能となった。



症例⑫

加金銀花とした。3月28日余り改善せず。



症例⑫

そこで奥の手としてこの際、毒を発散させ脱皮させる意味で麻黄3.0g、石膏4.0gを追加した。

4月11日 第一回脱皮時。



症例⑫

そこで奥の手としてこの際、毒を発散させ脱皮させる意味で麻黄3.0g、石膏4.0gを追加した。

4月25日 第二回脱皮後、眼が開いた。



症例⑫

そこで奥の手としてこの際、毒を発散させ脱皮させる意味で麻黄3.0g、石膏4.0gを追加した。

5月9日 どんどん良くなってきた。



症例⑫

そこで奥の手としてこの際、毒を発散させ脱皮させる意味で麻黄3.0g、石膏4.0gを追加した。

5月23日 ほぼ略治。



症例⑫コメント

桂枝湯系の方剤で皮疹が悪化する場合、副作用の可能性もあるが、中の毒が表面に浮き出つつあると判断した場合、越婢湯を合方し一気に発表させると脱皮して改善することがある。「暝眩(めんげん)」の一種と思われる。

症例⑬

T・Y 46才 女性

不安神経症、高血圧で近医で治療を受けていた。

平成20年3月に色々ストレスが重なり、4月に全身の皮疹が出た。皮膚科でアレグラ、アタラックスを処方されたが、眠くなり、口が乾くばかりで皮疹はかえって悪くなったと
いって6月12日当院を受診した。

体格、栄養中等度、脈浮やや弱、血圧146/86
腹力やや弱く、右に軽い胸脇苦満、臍上悸、右下腹に瘀血
と思われる圧痛を認めた。



経過：腹証や性格面は加味逍遙散と思われたが、先表後裏
と考え、煎じ薬で桂枝加黄耆湯加荊芥、連翹、樸楸、黄連、
山梔子、黄柏、蟬退を処方した。
一ヵ月後に著明に改善しはじめた。



経過：腹証や性格面は加味逍遙散と思われたが、先表後裏
と考え、煎じ薬で桂枝加黄耆湯加荊芥、連翹、樸櫟、黄連、
山梔子、黄柏、蝉退を処方した。
現在も服用させ再発はみていない。



症例⑬コメント

肝うつ面を治そうと経過中、加味逍遙散をベースにした所、
皮疹は逆に悪くなり、元の桂枝加黄耆湯に戻した所、
スッと改善した。余り捻り過ぎない方が良いケースも
あると自戒させられた。

症例⑭

N・M 28才 男性

小児期より便秘がちでアトピー性皮膚炎がある。更に最近太ってきた。全部をよくしてくれと言って来院した。

身長165cm, 83kg、腹囲97cm、脈沈実、血圧120/80

腹診で腹力は充分で両側に胸脇苦満を認め腹直筋は攣急している。

平成19年8月31日



経過：腹証も参考にして大柴胡湯合消風散をエキスで投与した。8月22日かえって悪くなったと言う。だが、「漢方薬服用中、一時的に悪くなることがある」と説明し、構わず継服させた。私の内心は本当はヒヤヒヤしていたが。



経過：腹証も参考にして大柴胡湯合消風散をエキスで投与した。8月22日かえって悪くなったと言う。だが、「漢方薬服用中、一時的に悪くなることがある」と説明し、構わず継服させた。私の内心は本当はヒヤヒヤしていたが。
9月3日 大部良いと言って来院した。



経過：腹証も参考にして大柴胡湯合消風散をエキスで投与した。8月22日かえって悪くなったと言う。だが、「漢方薬服用中、一時的に悪くなることがある」と説明し、構わず継服させた。私の内心は本当はヒヤヒヤしていたが。
10月1日 かなり良い。



その後は忘れた頃、漢方を取りに来ていた。
平成21年5月13日、腹痛、下痢で来院した。
皮疹は消えていた。腹痛、下痢は黄芩湯ですぐ治っている。



症例⑮

S・A 31才 女性

体質的に冷え症ですぐ下痢をする。乗物酔いしやすい。4日前キムチを食べたら顔に皮疹が出た。全部治してくれと言って平成21年2月26日来院。やせ型で手足は冷え、脈は右沈細、左浮細。血圧120/74、腹力弱、臍のあたりの腹直筋に抵抗、圧痛あり。



経過

太陽と少陰の併病と考え、虚証なので桂枝加黄耆湯合附子理中湯を投与した。

3月5日 食欲が出、下痢はしなくなった。

4月7日 すべて良いと言う。



全身性の皮膚疾患

B 老人性皮膚炎（皮膚掻痒症）

治療原則	実証	温清飲
	虚証	当帰飲子

コメント

抗アレルギー剤、抗ヒスタミン剤は眠気、口渇、判断力の低下等を起こす事があり、又 漢方薬はそういう心配がなく大変よく効く事を数々経験している。

症例①⑥

N・M 75才 男性

4年前から冬になると頭～上半身、下半身が痒くなり皮疹が出ると言って来院した。

大きな病院の皮膚科の飲み薬、外用薬は効かないと言う。
平成20年4月4日。

体格、栄養状態良好。脈80/分沈。

血圧130/76、腹力やや弱



経過

やや虚だが胃は丈夫との事なので当帰飲子合十味敗毒湯を5.0gずつ分2で投与した所、2週おきに著明に改善した。
平成20年10月3日を以って廃薬とした。



蕁麻疹

一応、熱証、寒証そして急性、慢性に分けて処方している。
原因を突き止める事が大事なことは言うまでもない。

寒証は、真武湯合桂枝加黄耆湯が良く、附子を適宜追加して使用する。

熱証

急性期 黄連解毒湯合茵^〇五苓散

（便秘があれば三黄瀉心湯）

慢性期は便通の管理が大事であるが

柴苓湯or防已黄耆湯合消風散or十味敗毒湯

以上は飽くまでも基本原則であり、バリエーションは色々ありその都度、腹診を参考にして処方している。

症例⑪

H・M 46才 女性

昨夜、イクラ、ウニを食べた所、夜 体中が痒くなり蕁麻疹が出たと言って平成19年12月6日来院した。

体格 中～やや虚。脈やや沈、血圧110/74



黄連解毒湯合茵^〇五苓散で一日分で治癒した。
平成20年3月3日来院したのはサザエのツボ焼き、イカ刺し
を2月27日に食べ腹～背、四肢に紅い丘疹が出たので来院。
便秘もあり、桂枝加・薬大黃湯合十味敗毒湯3日分で治癒。



帯状疱疹

○急性期

A 赤味熱感が目立つケース

黄連解毒湯合茵^〇五苓散

B 熱感、水疱が目立つケース

越婢加朮湯合茵^〇五苓散

ゾビラックス600mg～1200mg分3/日併用する方が
無難である。

帯状疱疹後神経痛 桂枝加朮附湯合四物湯

アロデニア 麦門冬湯合六味丸

症例⑱

U. K 62才 女性

日頃は高血圧、高脂血症で治療中である。平成18年8月14日より右側腹～腰にかけ、紅色皮疹が出現。ピリピリして痛いと言って8月14日来院した。脈沈弦滑、肥満体、血圧130/78、腹力は充分あり実証タイプである。



経過

ゾビラックス200mg6T分3、黄連解毒湯合茵^①五苓散を処方し、アンダーム軟膏を外用とした。

8月28日来院。痛みなくなり、皮疹も消退したと言う。
あと一週間漢方のみ服用させ廃薬とした。



症例①9

A・A 83才 女性

平成20年9月11日 膀胱炎様症状で来院した。血尿を認めたので猪苓湯合四物湯を処方した。それはすぐ軽快したが10月6日 左横腹が時々キリキリ痛むと言って来院した。体がだるいと言う。脈 沈弦滑 血圧136/80 左腰に紅い皮疹散発



2008/10/06 09:10

症例①9

経過

帯状疱疹と診断し、桂枝加黄耆湯合茵^①五苓散とゾビラックス600m g /日を投与した。

10月14日皮疹は右腰～背腹にひろがったが、乾燥傾向を認めたので継続させた。



症例①⑨

経過

10月21日 少し痛痒いと言うので、桂枝加黄耆湯合消風散
とした。

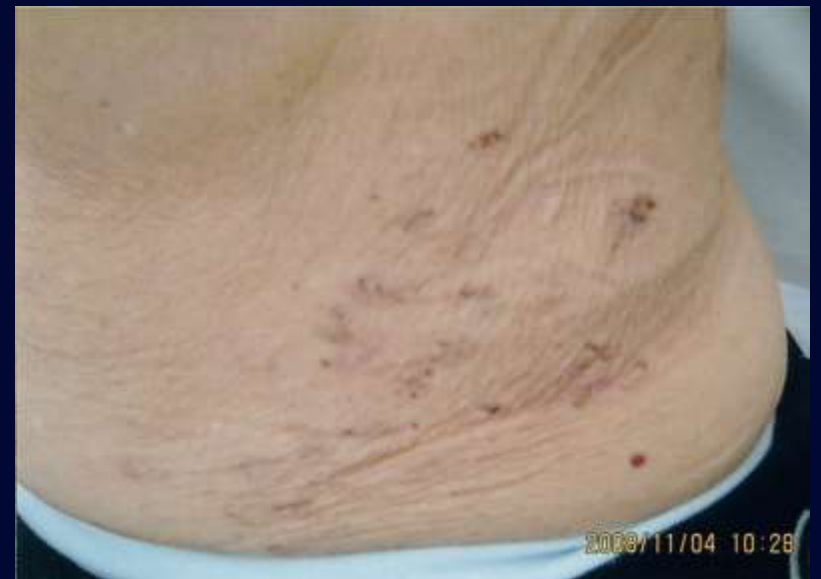


症例①⑨

経過

10月28日 今度は痛くて痒いと言うので、桂枝加苓朮附湯に加工附子末を追加して投与した。

11月4日 神経痛はかなり良いが、痒みが強いと言うので桂枝加朮附湯合当帰飲子に変更した。ゾビラックスは中止した。



症例①⑨

経過

11月11日 神経痛は全くない。痒みもないというが
11月19日まで服用させ廃薬とした。



症例②① N・K 88歳

主訴 右顔面の皮疹

現病歴

高血圧、高脂血症で治療中である。

平成22年8月9日右マブタのあたりがヒリヒリして赤くなっていると来院した。

以前、同部に50歳頃、帯状疱疹が出た事があると言う。

N・K 経過

脈やや浮 血圧140/80



ゾビラックス (200) 3T/日 桂枝加黄耆湯加附子1.5 g
を処方した。2日後の8月11日 憎悪した。



よってゾビラックス（200）6Tとし越婢加朮湯合茵の五苓散を
7.5gずつ分3で切りかえた。 8月12日 少し改善



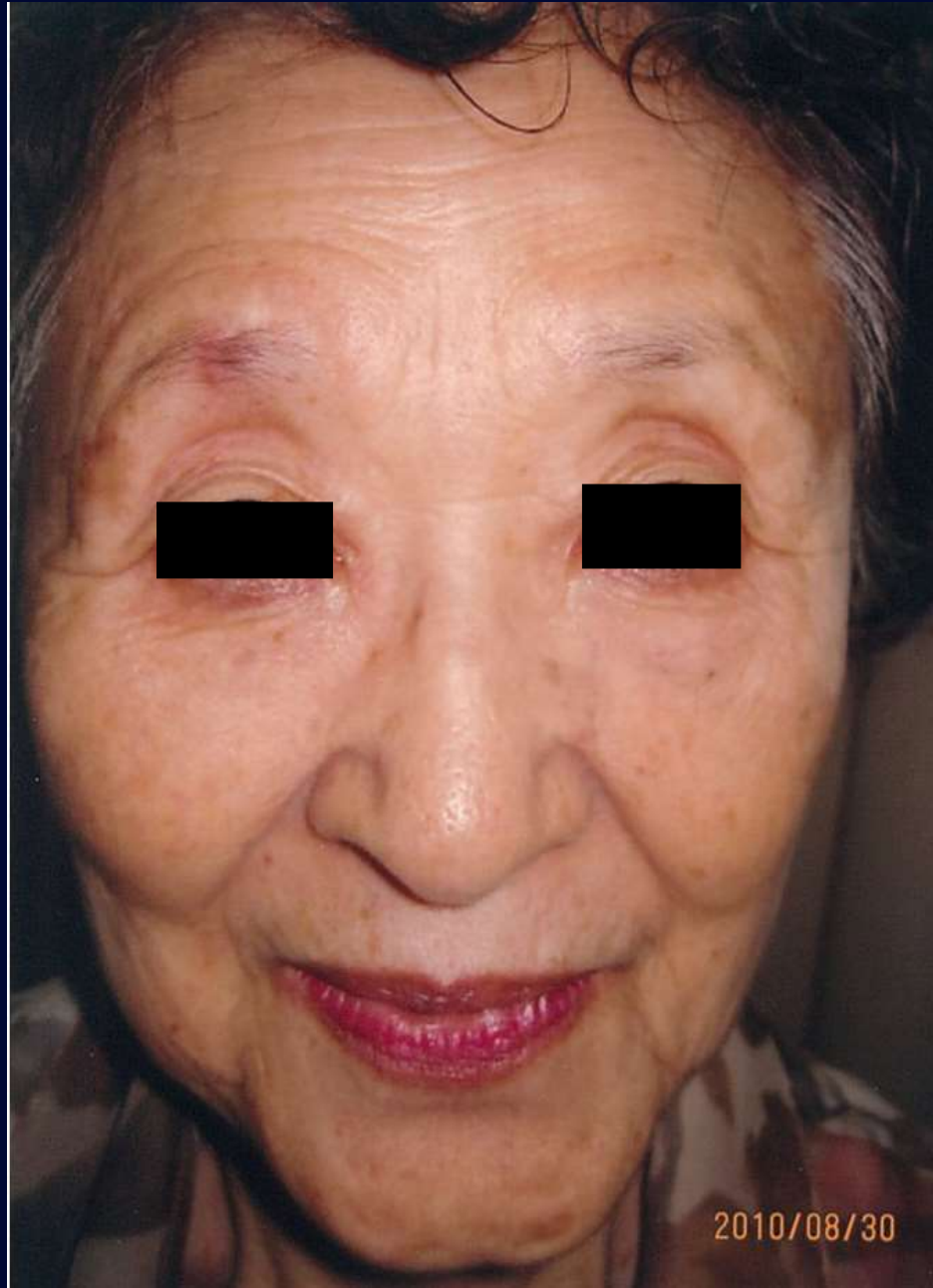
8月16日 90%回復 ゾビラックス中止



8月23日 99%回復



8月30日 99.9% 回復



9月15日 100%回復 漢方中止
神経痛その他合併症一切無し



症例21

Y・T 68才 男性

糖尿病で治療中である。平成19年6月12日に、2週間前より右側頸～前胸にかけ赤いブツブツが出た。痛痒いので皮膚科に行ったら、帯状疱疹と言われアシロベック、ボルタレン、メチコバルを処方されたがちっとも良くならない。ひどくなるばかりと言って来院した。



症例21

経過

場所を考え・根加朮附湯合茵^①五苓散を処方した。1週間後に痛みは消え、皮疹もみるみる消失したと言う。

8月15日の写真



帯状疱疹

亜急性期～後神経痛に対して

○症例22 I・Y 89歳 男性

主訴 左前胸～背中 of 神経痛

現病歴

8月21日 主訴の部位が帯状疱疹となり近医を受診。
バルトレックスを処方されたが2週経っても皮疹の
回復が悪く、リリカ、トリプタノールを1週間服用
しても、神経痛は少しも軽くならず、逆にフラツキ、
手足のフルエが生じたので9月7日当院を受診した。

I・Y 現象と経過

同部に癬痕様の発赤



脈 沈弦細 血圧132/80

まず体力・免疫力の回復をはかろうと考え煎じ薬を十全大補湯
加附子2.0を処方した。

10月8日 皮疹は回復したが神経痛はなおある。
程度は来院時の半分ぐらいと言う。



そこで、疎経活血湯を追加した。
11月8日まで続け、神経痛の再発もなく休薬とした。



円形脱毛症

大塚敬節先生「症候による漢方治療の実際」の
「7 頭髪がぬける」には

1 小柴胡湯or大柴胡湯加牡蛎

「特に小柴胡湯加牡蛎で10数人の円形脱毛症をなおした経験がある」と治験を述べられている。

一方、著者は柴胡加竜骨牡蛎湯の方を使用し、特に男性に対して数々著効している。

又、和田家の口訣に「男女共に櫛けづる度に髪ぬけ年不相応に髪の少なきに肝火のなす処ない。大柴胡湯大いに効あり」とある。

なお、勿誤藥室「方函」「口訣」大柴胡湯の条に大病後頭髮脱落する者 山梔子水煎之を服す癰に属する者大柴胡湯加甘草、

更に「油風」（円形脱毛症）には多く大柴胡湯を用いて効あり。華岡清州は加石膏とした。

2 桂枝加竜骨牡蛎湯

円形脱毛症ではなく、どことなく脱毛が多く、のぼせてフケが多く疲れやすいというものに用いる。

3 加味逍遙散

肝斑があって毛が抜けて困るという婦人

著者コメント

基本的には肝気うつ結、肝火を瀉し（竜骨牡蛎）で安神する。又、髪は血余と考え四物湯の方意を入れる事が基本になる。高齢者には補腎剤を入れる場合もある。

症例23 F・T 55歳 女性

主訴 円形脱毛症

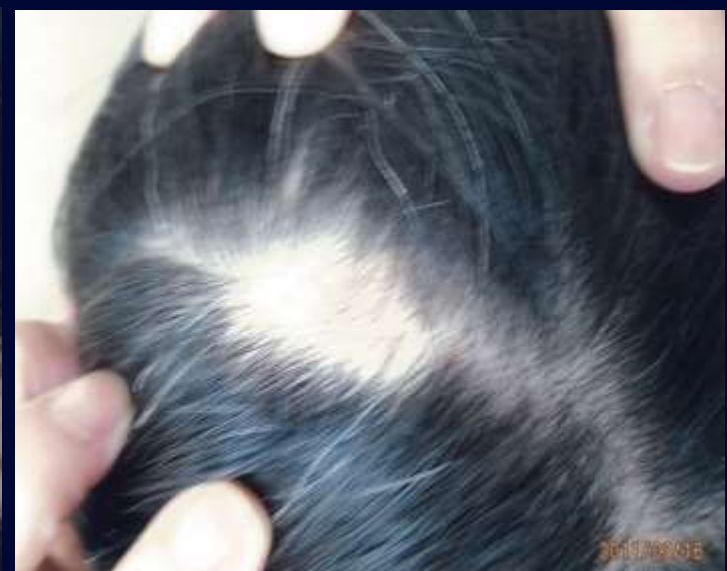
現病歴

昨年は忙しくて県外出張が多く、心身共に大変疲れた。その上娘が出産後うつ病となり、面倒をみる事になった。12月右ビンのあたりの円形脱毛に気づき周囲の人からてっぺんにもあると言われた。色々な病院をまわって治療を受けたが少しも改善しないと言って平成23年3月16日当院を受診した。逆流性食道炎によるノドのつまり、声枯れ、又胃の膨満感もあるとの事。

体格、栄養中等度、脈沈細、血圧136/88

腹診 腹力中～やや弱、右に胸脇苦満、心下部は膨満し打診で鼓音。左臍傍に腹部大動脈の拍動を触知。右下腹に瘀血と思われる圧痛を認めた。

右ビン、頭頂に円形の脱毛あり。



経過

煎じ薬で加味逍遙散合半夏厚朴湯加竜骨牡蛎を処方した。日を追う毎に改善を認め、3ヶ月半後の6月27日完全に回復した。



症例24 Y・A 73歳 女性

主訴 頭頂部の脱毛

現病歴

平成22年3月29日 下腹が痛く、血尿が出ると言って来院した。泌尿器科で脱肛ポリープを切除したが、2週経っても改善しないとの事。又慢性C型肝炎でウルソを服用している。

123当帰建中湯7.5 g + 112猪苓湯合四物湯投与で2週後にはすっかり改善した。

今度は5月14日 1年以上悩んでいた頭頂部の脱毛を何とかならないかと言って来院。

現症 160Cm、55Kg 脈沈細 血圧106/70
腹力やや弱、右に軽度の胸脇苦満 両側性に腹直筋の緊張と左臍傍に動悸を触れた。
頭頂部は脱毛状態



経過 肝うつがらみで虚証なので54抑肝散7.5g
+26桂枝加竜骨牡蛎湯7.5gを処方した。
2ヵ月後 7月26日 ほぼ回復



今年6月28日 又下腹部痛で来院
脱毛の再発なし



○男性の壮年性の禿髪は、大変治療に難渋するが、
ストレスがらみの円形脱毛症には漢方がよく効く印象を
持っている。

また老人性のものは、治療を断っている。
年相応と考えられるからである。

局所的皮膚病変

症例25 H・K 65才

強皮症で大きな病院で治療を受けている。当院には口囲のしわが増え、レイノー（手指の）、足の冷え、口内乾燥、皮膚のザラザラが良くならないかと言って平成19年7月11日来院した。足の皮疹もある。



症例25の経過

虚証なので迷わず温経湯を処方した。10月12日は口まわりのしわ、足の皮疹も殆ど良くなったと言う



症例25の経過

ところが元気になり海外旅行で飛行機に18時間乗った所、足の湿疹が憎悪した。



症例25の経過

11月20日 十味敗毒湯を追加した。

12月21日 来院時はほぼ消失している。



2007/12/21

症例25の経過

又、レイノーの時には加附子としてまあまあである。
5月で暖かくなったせいもある。



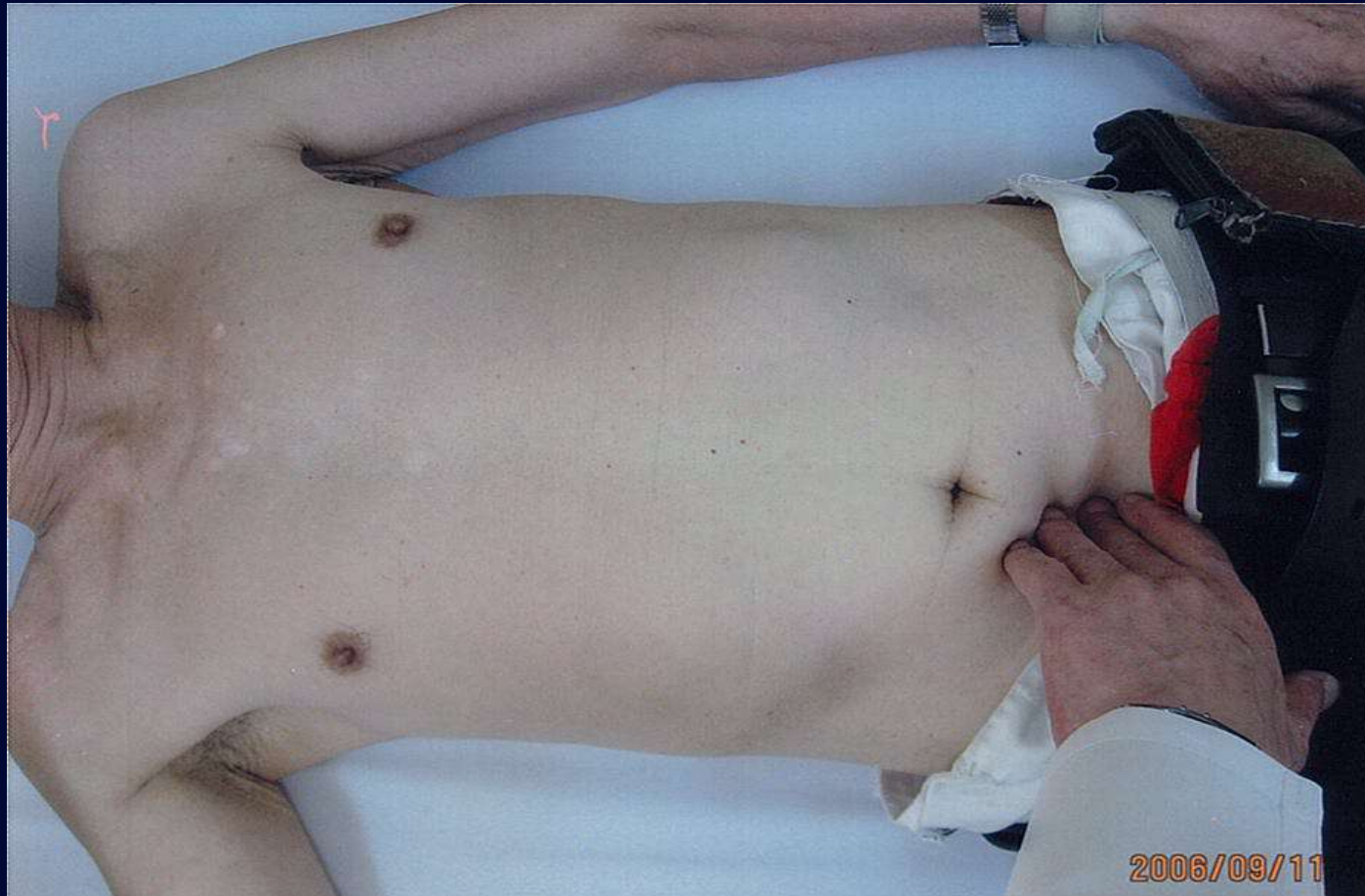
局所的皮膚病変

症例26 G・K 81才

平成21年3月10日 2年間、妻の介護の為水仕事を続けた所、しもやけができ、手がこんなになったと言って来院した。柿を食べ過ぎると特に悪いとの事。



きれいに治してくれと言う。他は悪くないのかと聞くと、
糖尿病と慢性肝炎は他院で診てもらっているから良いと言
う。やや痩せ型、脈 沈細 血圧130/78 両下腹に圧痛



症例26の経過

「ウチは内科です。皮膚科に行くように」言った所、2施設まわって内服薬、外用薬をもらったが良くならないと言う。

当帰四逆加呉茱萸生薑湯合桂枝茯苓丸加・苡仁を出し、手の温浴と果物等、体を冷やすものを控えるよう指示した。

みるみる回復し、その結果コミュニケーションも良くなり、内科方面（糖尿病と慢性肝炎）も一緒に診てくれと言われるようになった。



局所的皮膚病変

症例27 Y・Y 25才 男性

4—5年前から気管支喘息、通年性アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎が憎悪し、今年に入り手背の湿疹が特にひどくなり平成21年12月1日に来院した。

症例27

ステロイド軟膏は塗りたくない。抗アレルギー剤は飲みた
くない。漢方ですべて治してくれと言う。

脈 やや浮滑 腹力中程度 血圧120/78



症例27の経過

小青竜湯合消風散とした。2週間おきに来院した。鼻炎、喘息は殆ど良い。皮疹は枯れてきた。



症例27

平成21年5月12日の手背はほぼ略治



局所的皮膚病変

症例28 K・K 52才 男性

脂肪肝に対し大柴胡湯でF o l l o w中の人である。



今年（2009年）3月16日相談がある。手指を診てくれと言
う。



皮膚科の塗布剤で効かない。漢方で治らないかと言う。
そこで荊芥連翹湯を合方した。

3月30日 大部縮小



5月11日 かなり改善



その後の写真

局所的皮膚病変

症例29 T・N 57才 女性

1週間前 右手Ⅲ指の先が赤く腫れ痛んだので近所の外科に行った所、瘰癧と言われフロモックスを出されたが、全く治らないと言って今年8月8日来院した。



症例29経過

6十味敗毒湯7.5gを投与した。

3日目に潰れて排膿しすっかり良くなった。写真は8/22



症例29コメント

浅田宗伯は「癰疽に限らず一切の腫物、初め熱ある時は十味敗毒湯を用い潰ゆる否や今明ならざる時は托裏消毒飲を用い、口潰ることを見定め千金内托散を使用する」事を言っている。

局所的皮膚病変

症例30 K・Y 48才 女性

小児期より冬はいつも凍瘡になっていたと言う。

昨年3月 農業をしていて土いじりやゴボウを洗ったりしていた所、両手、特に右手の爪甲の生え際に炎症がおこり痛みがひどく、近所の皮膚科で出された抗生剤でワギナのカンジタ症になり継服出来ない。漢方で何とかならないかと言って平成21年4月14日来院した。

症例30現症

症例30

体格 栄養状態中等度 脈 沈弦

舌は暗赤、胖、舌下静脈怒張、血圧136/80

腹力中等度で両臍傍下に瘀血と思われる圧痛あり。



症例30現症（2）

症例30

手指は全体に腫脹



症例30経過

症例30

腹診所見で局所は瘀血をベースにした化膿と考え6十味敗毒湯合125桂枝茯苓丸加・苡仁を投与した。局所に紫雲膏を塗布するように指示した。

2週後に爪甲周囲の痛みはなくなった。

経過を追うごとによりくなり、8月12日に廃薬した。

6/24



8/12



局所的皮膚病変

症例31 I, S 83才 女性

下肢のうっ滞性紫斑性湿疹？

高血圧症、慢性心不全で長年治療中の患者である。

平成20年7月19日孫の結婚式に飛行機で上京した際、変形性膝関節症があるので両膝をサポートをして乗った。

翌日、下肢が腫れ、出血斑が多発しびっくりして近医を受診、点滴されるがよくなり、7月26日帰県後すぐ受診したと言う。胃痛、便秘がひどいと言う。

症例31現症

症例31

やや小太りタイプ、脈 64/分 沈、結代、血圧136/80

下腹に瘀血と思われる圧痛 下肢は両膝～足先までムクミ、
紫斑が多発



症例31 経過

6十味敗毒湯合125桂枝茯苓丸加・苡仁を7.5gずつ合方で食前に61桃核承気湯2.5gを就寝前に投与した。（7月26日）

↓8月15日紫斑は殆ど消失した。↓9月1日全くなかった。



症例31 その後

9月8日尿蛋白が強陽性であったので日赤病院へ紹介した所、紫斑病性腎症と診断され、治療を受け現在は蛋白（－）となり経過良好である。



反省

西洋医学的検査を漢方専門医と言えども必要である。

局所的皮膚病変

症例32 Y・S

顔がホテッて赤くなると言って平成21年5月11日来院した。
前腕の紫斑と足の皮疹もなおせと言う。



症例32 顔のホテリは腹満、便秘傾向と精神的におどおどしていたので、67女神散 1ヶ月で改善した。

足の皮疹は平成19年12月12日に難治性アフター性口内炎で来院した際、出した57温清飲で一時軽快していたので、今回も温清飲7.5gを投与した。皮ふ科では乾癬と言われているとの事。



症例32

7月11日足の皮疹ちっとも良くならない。むしろ少し悪化した。顔も又ホテリ出したと言う。前腕にも出たと言う。



症例32 その後の経過

そこで67女神散合22消風散を7.5gずつ合方で投与した。

8月6日 赤味は残っているが大変良い。カユミもなくなったと言う。

しばらく継続させる予定である。



次に

尋常性乾癬は温清飲加味をベースに処方を組む事が多い様である。

これでうまくいかないケースには駆瘀血剤を合方すると結構改善する事も多い。

では、これでもうまくいかない時はどうするのか。

難治例に対して

症例33. 65才の男性。

30年前よりこの疾患で苦しみ、色々な大病院の皮膚科で入退院をくり返していた。平成21年夏、織部塾の永井先生に漢方処方され少し良い様だとの事で12月8日、紹介され来院した。

それまでの漢方薬 消風散→温清飲→治頭瘡一方

体格栄養状態 良好、赤ら顔

血圧 140/80 脈 沈弦、腹力中等度

難治例に対して

経過

温清飲加荊芥、連翹、樸楸、黄耆、石膏、阿膠を投与したが(H21.12.8)、皮疹は一進一退であった。皮フ科でもらっていたオキサールは一時的ですぐ再発する。

「先生の漢方にかけてるんや」と言う。

そこで桂枝茯苓丸加・苡仁を合方した。(H22.3.16)
2週ごとに来院し、随分改善したように見えたがもひとつ治らないので紫根牡蠣湯を煎じ薬に合方した。7/06

結果は、実際の写真で見ていただく事とする。

難治例に対して

スライドで経過をみていただく事にする。





2009/12/08





















2008/05/30

難治例に対して

紫根牡蠣湯は水戸西山公の蔵方のようなのであるが「無名の悪瘡」「頑瘡」「痒瘡嶮悪の証」を治すとある。

内容は当帰、・薬、川・、大黄、升麻、牡蠣、黄耆、甘草、忍冬、紫根」の十味であるが、この中の紫根、牡蠣、忍冬（+升麻、大黄）がPointだと私は考えている。

難治例に対して

症例34 64才、男性

6年前 背中に皮疹、その後全身に拡った。
あたたまると悪いと言って平成22年3月24日当科来院。
福岡県在住で大学病院を含めあらゆる皮フ科を回った。
現在、ペリアクチン、アトラックスP、アイピーデー、プレドニン10mgを服用し、デルバート軟膏を塗布しているが全く良くならない
と言う。それで色々文句を言ったら「大分に漢方をして
いる変ったドクターがいるのでそこに行ったら」と言われて
ので来たと言う。(H22.3.24)

糖尿病がある。 HbA_{1c} 8.0%

現症 肥満、赤ら顔

血圧 142/86、舌：厚白苔、腹力中等度

経過

「どこが変っているのか」と一瞬考えたが、先ず桂枝加黄耆湯合越婢加朮湯加荊芥、連翹、黄連、樸楸を投与した。(3/24)

2W後、来院。皮疹は多少縮小したがあたたまると痒い、皮フ表面に熱があると言う。白虎加人參湯合黄連解毒湯合桂枝茯苓丸加・苡仁を投与。(4/12)

2週後、却って悪くなったようだという。

それでは「奥の手を出しやす」と言って紫根牡蠣湯合黄連解毒湯加荊芥、連翹、蟬退を処方した。(4/27)

5月21日、この6～7年の中で一番良くなったという。不思議な事に糖尿病状態も良くなったという。「プレドニヤセスタミンはずっと飲んだままでしょう？」「そうです」紫根牡蠣湯は無名な悪瘡だけでなく糖尿病にも効くのでしょうか？

難治例に対して

スライドで経過をみていただく事にする。











2010/04/12











2010/05/21

紫根牡蛎湯と共に難治性皮膚疾患に対して 知っておいた方が良い処方

①大連翹飲（万病回春）

処方内容は「連翹、荊芥、通草、防風、牛蒡子、甘草、蝉退、当帰、芍薬、柴胡、黄芩、山梔子、滑石、車前子」

「勿誤」に「元、痘疹収ようなの期に及んで餘毒甚だしく諸悪症を現ずるを治する方なれども、今運用して、大人老婦、血分に瘀滞ありて身体種々無名の悪瘡を発し、諸治効なきものに与えて奇効あり。」

結語

漢方一筋でやってきて気がついたが最近、西洋医学の専門が無くなってきた。

ただし、私の漢方力はまだまだ未熟であるが山田流漢方を少しでもマスターして後輩にそして後世に是非とも伝えていきたいと決意している。

ステロイド塗布を嫌う患者ばかりが当院に漢方治療を希望して来院するので、しかも演者は皮膚科が専門でないので余りひどい皮疹の方が来られると一瞬逃げ出したい衝動に襲われるが、そこはグッとコントロールして漢方の目でみたらどう出来るのかに気持ちを集中して診療にあたるように努めている。

今回の講演の機会を与えられて始めて皮膚科疾患と漢方をまとめてみた。基本に従って処方すると、漢方は結構効くのだなと再認識した。

又、白癬菌感染は抗真菌剤の内服、塗布がファースト
チョイスと思われる。白癬菌に対して演者は診断技術がな
いので、あやしい皮疹は皮膚科専門の先生に依頼している。

それでも治らない場合は、爪白癬などに対して内服は、
爪への血液改善をはかる為、当帰四逆加呉茱萸生姜湯合桂
枝茯苓丸料とし、外用はアスタットクリームに紫雲膏を混
合して使用し、まあまあの結果を得ている。